北海道建築士
HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2026.11.No351
11月号

目次

第43回青函桧交流会を終えて……1
青年委員会各ブロック協議会報告……3
技術ノート（CPD自習型認定研修）……5
Coffee Break……7
information……8

URL　https://www.h-ab.com/

第43回青函桧交流会を終えて



事務局長　谷　内　正　則（函館支部）

８月22日に第43回青函桧交流会函館大会を開催しました。

青函桧交流会は、昭和55年に青森支部と函館支部の交流を図る目的として始まりました。

函館支部から「青森のねぶたに参加したいので案内してほしい」と青森支部にお願いした結果、青森支部のみなさんに快く引き受けていただいたのをきっかけに毎年、開催地を交互に開催していたところ、平成３年には桧山支部も交えて、現在の青函桧交流会として３支部持ち回りで毎年開催する形となりました。

令和８年の今年は函館開催ということで、函館支部では、開催する３カ月前の５月から総務委員会を中心に行程案を作成し検討したり、バス会社との交渉などを行いました。しかし、函館支部のなかでも久々の開催であるため、メインとなる最近函館に開業したワイナリー「ド・モンティーユ＆北海道」で交流会を行う以外はイメージがわかず、なかなか議論が進まない、事務局でも不安な日々が過ぎました。しかし、７月後半からは支部役員の皆様から行程に関するたくさんの提案が事務局に寄せられ、準備が進みました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

開催10日前の天気予報では雨予報でやきもきしていましたが、いざ当日になってみると、晴天に恵まれ、夏を感じる絶好の交流会日和となりました。

集合場所である新函館北斗駅では、桧山支部と合流したあと、新幹線で到着した青森支部の皆さんをお出迎えし、バスで令和４年に開業した函館の酒蔵「五稜の蔵」へ向かいました。

五稜の蔵では、日本酒の試飲や酒粕を使ったソフトクリームを堪能し、朝から少しほろ酔い気分になりながら久々に会った各支部の方々と楽しく交流を深めました。

次に「金森赤レンガ倉庫」では、ショッピングと昼食の弁当を屋外でいただきました。観光客気分の皆さんを連れて次に向かったのは、定番の五稜郭です。

五稜郭タワーの展望台からの眺望を楽しんだり、五稜郭の奉行所を見学するなど、参加した皆さんに函館を満喫していただきました。そのあとは、メインであるド・モンティーユへ向かいました。



五稜郭タワー前で３支部集合写真

ド・モンティーユは、函館山とは反対側の山にあるワイナリーであるため、函館のトンボロと呼ばれる地形を見渡すことができる、丘陵地に広がる自社畑を備えたワイナリーです。

施設の方になかなか見ることのできないワインの製造工場の説明をいただき、ワイン樽が置かれている貯蔵庫の中も見学しました。そして、建物を設計を担当した二本柳支部長からも建物の説明をいただいたあと、ワイナリー施設内にあるレストランで、函館産のブドウを使った赤と白ワインの２種類をいただきながら、フランス料理を堪能しました。最高の景色とおいしい料理、そして函館産のワインと、支部交流会の楽しいひと時を参加した皆さんと一緒に過ごしました。



ワイナリーを背景に集合写真


函館の景色を見ながら交流会


サラミとチーズの一品

最後、道の駅なないろななえに立ち寄り、最後新函館北斗駅で解散となりました。

毎年この交流会を開催することにより、青森支部と桧山支部と函館支部が身近な存在となり、助け合える関係を構築しているものと感じています。

また、今回の函館大会に本間会長をはじめ、本部と道南ブロックよりこの交流会に合計６名のご参加をいただきましたことに、感謝とお礼を申し上げます。

令和８年 会長表彰受賞者

日本建築士会連合会会長表彰および伝統的技能者表彰の表彰式が、10月16日に開催された「第68回建築士会全国大会（ぐんま大会）」において執り行われました。また、北海道建築士会会長表彰につきましては、10月３日「北海道建築士会第48回全道大会（さっぽろ大会）」の式典において、多くの参加者が見守る中、表彰が行われました。

受賞された皆様は、それぞれの立場で建築文化の発展や建築技術の向上、建築士会活動の推進に大きく貢献され、その功績が高く評価されたものです。皆様のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

このたびのご受賞、誠におめでとうございます。

※敬称略、順不同

【日本建築士会連合会会長表彰受賞者】

十勝支部　岡田　　隆　　札幌支部　新藤　紀彦　　札幌支部　木谷　泰彦
札幌支部　後藤　朋恵

【伝統的技能者表彰】

十勝支部（推薦）　髙島　光治

【北海道建築士会会長表彰受賞者】

●永年表彰

札幌支部　東　　道尾　　札幌支部　犬養　大介　　札幌支部　小椋　政俊
札幌支部　川合　則夫　　札幌支部　宮川　耕介　　札幌支部　山元　規子
函館支部　石黒　勝利　　函館支部　岩城　邦彦　　函館支部　小田島　一
苫小牧支部　鈴木　孝義　　空知支部　工藤　寛人　　空知支部　谷口　正樹
空知支部　三吉　修司　　空知支部　芹川　　聡　　北空知支部　小田　晃嗣
北空知支部　當野　弘之　　北空知支部　夏井坂　聡　　北空知支部　中落　直樹
北空知支部　藤井　雅仁　　旭川支部　本田　照彦　　旭川支部　楠瀬　賢一
旭川支部　牧野　　靖　　旭川支部　斉藤　宏一　　名寄支部　山本　明史
名寄支部　髙橋　和之　　名寄支部　照井　秀樹　　十勝支部　吉本　哲哉
中標津支部　佐藤　主計　　中標津支部　清水　光夫　　宗谷支部　冨澤　　哲

●功績顕著者

札幌支部　平井　香希　　札幌支部　新海　直美　　札幌支部　菅原　秀見
札幌支部　鈴木　彩恵　　札幌支部　梅原　博大　　札幌支部　岡村　卓也
函館支部　原　さくら　　檜山支部　本間　幸徳　　小樽支部　北本　勝也
苫小牧支部　大槻　卓矢　　十勝支部　金澤　眞澄　　十勝支部　松崎　　聡
宗谷支部　原　　良紀　　宗谷支部　谷口　進一　　宗谷支部　大橋　　律

共に学び、共に楽しみ、次の次世代へ



青年委員会
道央ブロック長
伊藤　洋平（千歳支部）

今年度より道央ブロック長を務めることになりました、千歳支部の伊藤洋平です。建築士会に入会してから約16年。これまで多くの先輩方に声をかけていただき、仕事だけでは得られないたくさんの経験や学びをいただきました。今度は自分が、少しでもその恩返しができればと思いながら活動しています。

今年度は「共に学び共に磨く 次世代につなぐ建築の力」をテーマに、道央ブロックでは「学び」と「交流」を大切にした活動を行っています。

第１回の協議会では、札幌の街を実際に歩きながら、普段何気なく見ている建物や街並みを建築士の視点で改めて見る機会をつくりました。座学だけでは得られない発見も多く、参加した皆さんと意見を交わしながら歩くことで、楽しく学ぶことができました。

第２回の協議会では、喜茂別町を舞台に、家族参加型の活動を行いました。まるこ邸やクレードル興農㈱、真照寺などを見学し、真照寺では、建築士会のメンバーが設計・施工に携わった建物について、実際に施工を担当した会員から説明を聞きました。

今回の活動では、会員だけではなく家族や子どもたちにも参加してもらいました。施設見学では、ただ建物を見るだけではなく、「なぞなぞ形式」で景色や建物の中にあるものを探すなど、子どもたちも楽しみながら参加できる工夫を取り入れました。大人も子どもも一緒になって考え、発見し、笑う。そんな時間を過ごすことができました。

夜にはBBQや花火を楽しみ、翌日は川遊びやラフティングにも参加しました。建築士会というと、どうしても「建築の勉強」や「仕事」というイメージがありますが、こうした活動を通して会員同士だけでなく、その家族とも交流できることは、建築士会の大きな魅力の一つだと感じています。

今回、子どもたちが楽しそうに過ごしている姿を見て、建築士会の活動を次の世代につないでいくためには、まずは「楽しい」と思ってもらうことも大切なのではないかと感じました。

これからも、先輩方から受け取ったものを次の世代へつなぎながら、建築を通じて学び、交流し、楽しめる活動を続けていきたいと思います。そして、まずは自分自身が楽しむことを忘れずに、たくさんの仲間と一緒に道央ブロックを盛り上げていきたいと思います。

道南ブロック協議会



青年委員会
道南ブロック長
渡邉　忍（日高支部）

今期より道南ブロック長に就任いたしました渡邉と申します。日高支部では若手に入る43歳ですが、最近は寝ている時に足を攣ってしまうことが悩みです。

道南ブロックは、４月25日に新ひだか児童養育相談センター「もこもこ」にて、研修会・協議会を開催しました。

研修では、この施設の工事に携わった前日高青年委員長を講師に招き、概要説明や施設内の見学を行いました。日高管内では初のCLT工法を採用しており、内装も道産木材をふんだんに使用し、とても心地よい空間を創出しています。

また、太陽光発電設備・地中熱設備を備えており、ZEBを取得し環境にも子供にもやさしい施設となっていました。同日に開催された、親会のブロック協議会とも意見交換や、鹿しゃぶを囲みながら懇親会を行い有意義な時間となりました。

青年道南ブロックの諸先輩から引き継いだ「真面目にふざける」精神でブロック内の活動を行っていきたいと考えていますので、他ブロックの方や普段の活動に参加できていない方も、是非道南ブロック協議会へ遊びに来てください！

ただ、２回目はZoom開催ですので、まずは下記のＱＲコードで活動内容見ていただき、チャンネル登録お願いします。

北海道建築士会日高支部チャンネル→
（YouTube）



ブロック協議会



意見交換会

道北ブロック、今年も楽しく！



青年委員会
道北ブロック長
黄田　信行（上富良野支部）

今年度、道北ブロック長を務めさせていただくことになりました黄田です！昨年度は『青年建築士の集い』で上富良野町に沢山の青年の方に訪れて頂き誠にありがとうございます。建築士にとって密接な関わりのある【防災】をテーマに十勝岳噴火に関わる砂防ダム施設を見学して頂きました。今年で大正噴火から100年、７月と８月に小規模な噴火が発生し、噴火警戒レベルも上がり火山活動が活発な状態が続く状況です。このような状況になり、前回の見学を通して、防災における建築士の役割や、地域の安全を守ることの大切さを改めて考えるきっかけになりました。

道北ブロックは、宗谷、名寄、士別、旭川、留萌、北空知、上富良野、富良野の８支部からなるブロックです。各地域で活動する会員が集まり、協議会等を通して情報交換や交流を行っています。普段は仕事に追われ、なかなか他の地域の方と話す機会もありません。だからこそ、こうして集まって顔を合わせる時間は、とても貴重なものだと感じています。

今年度は第１回、２回の協議会理事会を終え、第１回の名寄支部開催で市内の元産業高校を中学校に改修、別の中学校の改築工事の完成見学を行いました。第２回は留萌支部開催では増毛町で昭和８年に建築された木造３階建ての旧旅館や旧家屋を改修し果樹拠点施設の完成見学を行いました。なかなか普段の仕事だけでは見れない現場や工法を学びました。協議会理事会後の懇親会では大いに盛り上がり各支部、親睦を深めました。

こうした活動を通して感じるのは、建築士会は仕事だけのつながりではないということです。仕事の話はもちろんですが、地域の話をしたり、くだらない話で笑ったり、共に知見を深めることで、自然と距離が縮まっていきます。そして、そうした関係が、いざというときの相談や仕事でも繋がっていくのだと思います。

また、青年の集いや全道大会などでも、道北ブロックから多くの方が参加し、建築士会を盛り上げてくれています。こうした一人ひとりの活動が、道北ブロックの力になっているのだと思います。

建築業界も、人手不足や担い手の確保、働き方など、いろいろな課題を抱えています。難しい話をすることも必要ですが、まずは「行ってみようかな」「ちょっと顔を出してみようかな」と思えるような、気軽で楽しい場をつくることも大切だと思っています。

今年度も、各支部の皆さんに助けていただきながら、楽しく、時には真面目に、道北ブロックの活動を進めていきたいと思います。

せっかく同じ建築士会でつながった仲間です。仕事の話も、地域の話も、そして時にはどうでもいい話もしながら（笑）、楽しく交流していきましょう。

今年一年、皆さんとたくさん笑って、たくさん話せる一年にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

堅苦しいのは抜きにして



青年委員会
道東ブロック長
久保田　俊（中標津支部）

このたび、道東ブロック長を務めさせていただくことになりました久保田です。見た目に対し中身が追い付いていないところが私の自己紹介となります。大役に少し緊張しつつも、大好きな道東の仲間と地域と建築のために色々な活動に携われることを、とても楽しみにしています。

道東といえば、果てしなく広がる美しい大地や豊かな食など魅力がたくさん詰まった地域です。さらに冬は寒く厳しいですが、その環境下においての建築の存在を強く感じます。しかしながら、建物の老朽化、人口減少に伴う空き家問題や職人不足といった、現場で直面する課題も山積みです。ですが、だからこそ私たち建築士のアイデアとチームワークが生きる場面がたくさんあると感じています。私自身、堅苦しい挨拶や形式張った雰囲気はあまり得意ではないので（笑）、会員の皆さんと気兼ねなくアイデアを出し合えるような、フランクで風通しの良い関係をつくっていきたいと考えています。

これからのブロック協議会運営において、私が大切にしたいのは「横の繋がり」と「顔の見える連携」です。広大な道東地域では、それぞれの支部や地域ごとに異なる強みや独自の現場の知見、そして日常の悩みがあるかと思います。それらを一人や一つの支部で抱え込むのではなく、協議会という場を通じて気軽にシェアし合い、困った時にはお互いに助け合える仲間意識で行動していくことが大切なのかなと考えます。

また、これからの建築士会を支えていく若い世代の育成や世代交代、私は相当苦手なデジタルツールの活用による業務の効率化といった時代に合わせた課題にも、みんなで楽しく取り組んでいきたいと思っています。特にベテランの考えと若手の新しい感覚がうまく混ざり合い、刺激し合える場になれば最高です。「せっかく建築士会に入っているなら、楽しまなきゃ損」と思ってもらえるような、前向きでワクワクする活動を目指します。

肩肘張らず、まずは各支部の皆さんとくだらない会話をするところからスタートします（笑）どうせなので地域の未来を一緒に面白くしていきたいなと感じます！だいぶカッコいいことを言ってしまい身震いしていますが、ぜひ青年イベントや協議会の場でお会いした際には、気軽に声をかけてください！それと同じく、道東ブロックの人たちは個性豊かで、良い人ばかりの人に恵まれた環境だと私は思っています。私に限らず、道東ブロックの人にも気軽に声をかけてください！

最後に、なかなか人数の揃わないブロック協議会、若者の人数も少ない限界ギリギリな青年支部活動・・・だからってなんですか！それでも道東は寄り添いながら楽しくやっていますよ！

道東の現場からは以上です！

木造集合住宅向け全館空調手法の開発

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部
北方建築総合研究所 建築研究部 研究主幹　北　谷　幸　恵

1．はじめに

建築物の建設時におけるCO_2排出量低減や木材使用による炭素固定を目的とし、中層以上の集合住宅の木造化が、推進されています。道総研北方建築総合研究所では、三井ホーム㈱との共同で、等級６以上の高断熱化により暖房負荷の低減を図った木造集合住宅を対象に、床と天井を二重化して（図１）、界床の遮音性能を確保しつつ、空気搬送チャンバーとして利用する空調手法を開発しました[注1)]。本報では、その概要を報告します。

2．高い床衝撃音遮断性能を実現する界床の仕様

本開発では枠組壁工法を対象に、実建物での実験により界床の仕様を検討しました。その結果、図１のように、二重床に防音フローリング[注2)]を組み合わせ、二重天井のふところ内に粒状体[注3)]を設置する等により、重量・軽量床衝撃音ともに高い性能を実現しました（表１）。この床と天井の仕様を前提とし、次章に述べる全館空調手法の開発を進めました。

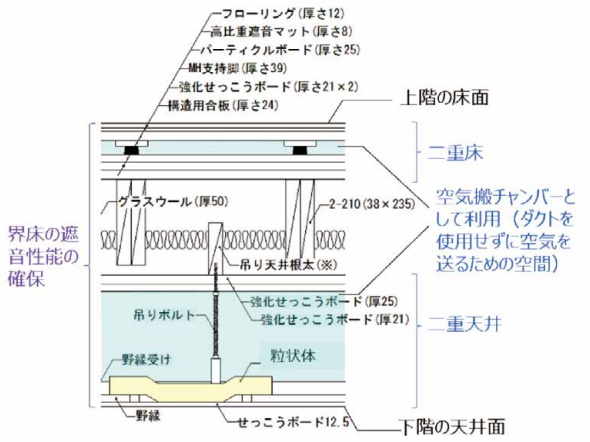


図１　床と天井の二重化

表１　界床の遮音性能

床衝撃音	既存耐火仕様（図２）	本仕様（図１）
重量	70	60
軽量	75	50～45

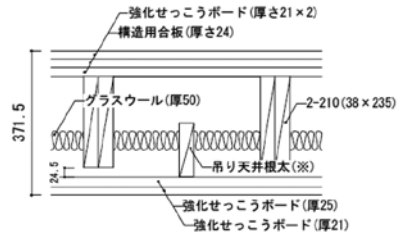


図２　既存耐火仕様

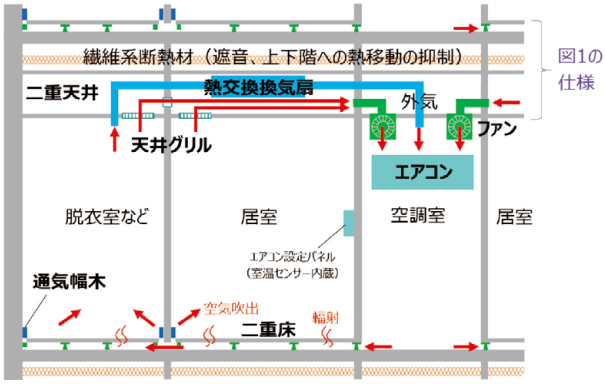


図３　全館空調手法の概要

3．全館空調手法の概要

(1)　暖冷房の熱源

図３に示すように、本手法では、１台のエアコン（ルームエアコンディショナー）で、１住戸の暖冷房の熱源を賄います。この手法には次の３つの利点が考えられます。①新築時と機器更新時のエアコン設置コストが安価になります。②高断熱化により暖房負荷が削減された建物では、複数台よりも１台の方が、エアコンの効率低下による電力消費量の増加を抑制できます。③電力のCO_2排出原単位の将来的な低減により、灯油等の暖房器具と比べ低炭素化が期待できます。

(2)　換気

換気装置については、全熱交換型の換気装置を採用しました。寒冷地では、全熱交換型は冬季の乾燥の緩和に利点がありますが、夏季の採り入れ外気の湿度低減によるエアコンの潜熱負荷（除湿の電力）の削減にも効果があると考えられます。

(3)　空調室

空調室への吹き出し空気、すなわち換気の採り入れ外気と室内からの還気は、エアコンで加温または冷却します。空調室内でエアコンが吹き出した空気を、再度、エアコンが吸い込むと、エアコンの効率が低下してしまいます（図４左）。これを防止するため、空調室への吹き出し空気の合計風量が、エアコンの風量よりも多くなるようにします。また、空調室内における空気の流れを制御するには、邪魔板の設置が確実な方法ですが（図４中）、エアコンのメーカーが指定する設置方法を満たさず、故障時の

保証が受けられないリスクがあります。本開発ではメーカー指定の設置方法を満たしたうえで、空調室への吹き出し空気をエアコン直上に集めることで、再吸込みを抑制しました（図４右）。

⑷　住戸内の空気搬送経路

空調の空気は、空調室から二重床内部を経て、二重床用の部材である通気幅木から室内に吹き出し、天井面のグリルから天井ふところ内に流入し、ファンにより空調室内へと還ります。

通気幅木の有効開口面積は、単位長さあたり7.8[cm^2/m]の製品では風切り音が発生しましたが、17.2[cm^2/m]の製品は、問題無く使用できました（写真１）。

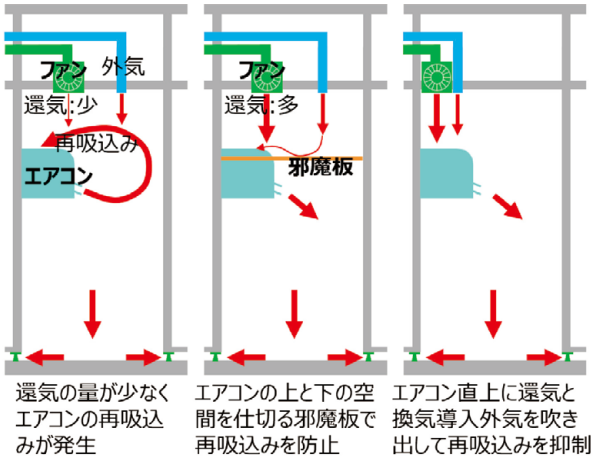


図４　空調室内のショートサーキットの抑制方法

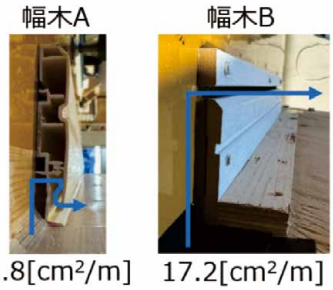


写真１　通気幅木の有効開口面積の例

４．温度むら低減手法

温度むらには、複数の部屋間で生じる室温の差と、１つの室内の場所によって生じる温度差の２種類があります。

前者は、本空調手法の場合は、還気用の風量可変型ファンで調整できます。

後者は、二重床の表面で生じる温度差を（図５右上）二重床内部の空調室近傍の位置に空気を拡散させる部材（図５左下）を設置することで緩和できます。

５．室内の温熱環境の検証

旭川市の弊所敷地内の実験住宅にて、本空調手法を試行し、温熱環境を測定しました。実験棟は、断熱等級６を想定した断熱仕様を有する、東西6160×南北3185mmの平屋です。

通気幅木から室内へ吹き出す空気の風量が、冷房時で床面積あたり19[m^3/h]以上（図６左）、暖房時で床面積あたり４[m^3/h]以上（図６右）のときに、上下温度差が３℃以内となりました。また、気流は、夏・冬とも、手を通気幅木の直近にかざさない限り、感じられませんでした。

６．おわりに

住宅の空調には、室内環境の快適性向上だけでなく、建設費高騰に伴う低コスト化、高断熱化に伴う低負荷化への対応、および、気温や湿度上昇の気候変動への適応等が求められます。これらの課題への対応に向け、本報で紹介した空調手法が皆様の空調設計・開発のヒントとなり、お役に立てれば幸いです。

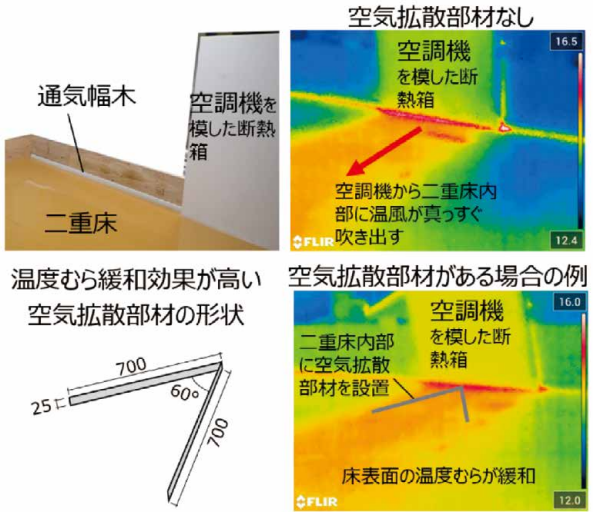


図５　床表面の温度むらの例（実験室での実験）

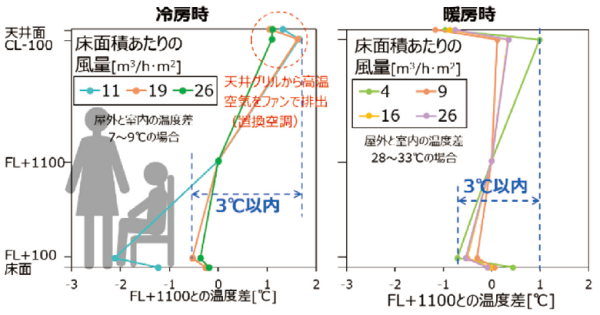


図６　上下温度分布（屋外実験棟での測定）

注１）本報告は、次の研究成果に基づきます。北海道立総合研究機構 令和５～７年度　一般共同研究「中低層木造集合住宅用の天井懐と二重床を利用する全館空調システムの開発」、共同研究機関：三井ホーム株式会社、協力機関：DAIKEN株式会社、早川ゴム株式会社（https://www.hro.or.jp/building/about-us/develop/nenpou.html#R7）

注２）防音フローリングは、床直貼り用のものをメーカーに確認して使用した。二重床への施工の可否は、メーカーへの確認が必要となる。

注３）袋に入った粒材を天井に載せることで、上階の床から伝わる振動を粒材が振動摩擦により吸収し、天井ボードの揺れを抑え、音を低減する。

自習型認定研修の設問は、P8に記載しています

桧山支部　第43回青函桧交流会を終えて

副支部長
伊勢　昭彦



函館支部、桧山支部、津軽海峡渡って青森支部の３支部は、毎年持ち回りで交流会を開催しております。今回の青函桧交流会は、函館支部が担当となり、数えること43回目の交流会が函館市で開催されました。まず、青森支部17名を函館支部と桧山支部が新函館北斗駅でお出迎えし、「元気だった」の第一声から始まります。そして、駅構内を通行している方に迷惑をかけながら、恒例の記念写真、その後、バスに乗り込み、向かう先は函館市に54年ぶりに誕生した酒蔵である「函館五稜乃蔵」の施設見学です。担当者からはこの地で作られている酒米と水を使って仕込んでいることなど丁寧な説明を受けた後、当該施設である建築物を見学、薄らと赤い顔の人が増えており、ふと振り返ると試飲コーナーに行列があり、さすが青森、お酒を堪能しているぞと思いつつ、移動のため、バスに。その中には何故か山のような箱があるではありませんか。次に、２カ所目の観光スポットである金森赤レンガ倉庫周辺の函館海戦市場の見学です。お土産を買い求めつつ、昼食となりましたが、函館支部から次から次へと運ばれてくるキンキンに冷えた缶ビール、この日は30度を超える猛暑日、体が喜んでいるのを感じました。続いて、五稜郭公園へ、五稜郭タワーにある望台に登り、函館山や津軽海峡、横津連峰の山並みや特別史跡五稜郭の大地に輝く星形が目に映ります。意外と地元である私たちも展望台にくる機会がなく、改めて、立ってみると感慨深いものがありました。続いて、フランスのブルゴーニュにある300年の歴史を持つ家族経営のワイナリーで、最も古いワイン生産者のひとりであるエティエンヌ・ド・モンティーユが日本産ワインの質の高さと多様性、日本に於けるブドウ栽培の可能性、また、北海道の気候がピノ・ノワールとシャルドネに合うことを確信し、外国のワイン生産者として日本で最初のブドウ園と醸造所を開設したワイナリーを見学するため、バスは山へ、山へと細い道をひたすら走り、標高230mの地にある絶景のワイナリーに到着しました。施設見学後、待ちに待った懇親会です。この歴史ある交流会で初となる本間会長と総務委員会の面々に加え、中原道南ブロック長が参加。二本柳函館支部長歓迎の挨拶、次に本間会長の挨拶があり、おいしいワインと食事を堪能、次から次へと運ばれるワインの影響で話もはずみ、楽しい交流会があっという間に終了。中締めの挨拶は、私が愛してやまない成田桧山支部長です。次回の開催支部となりますが、これを超えられる内容とできるかを悩みつつ、笑いを誘う中々いい挨拶でした。七飯町の「道の駅なないろ・ななえ」の見学。楽しく、充実した１日は、あっという間に過ぎ、バスは新北斗函館駅に到着。改札口で「また来年ね」と、肩が外れるくらい手を振る皆さん。しかし、足元はふらふら、無事に家に辿り着くか心配しつつ、飲み会に集まったのですかと、心で囁きました。次回は、桧山支部の担当です。歴史あるこの交流会を諸先輩に感謝しつつ、次世代に繋げるため、更なる高みを目指すぞと誓った楽しい交流会となりました。

富良野支部　今年度の活動について

支部長
菊田　和雄



今年度から富良野支部支部長となりました菊田と申します。建築士会の皆様には日頃から大変お世話になっております。

さて今年度の活動についてですが、１月23日（金）に支部総会を開催し、１年間の活動について支部の承認をいただき、懇親会では25名の参加者と今後の活動についての意見交換、日頃の情報交換など行うことができました。

６月22日（月）就任して初めての支部長・事務局長会議に出席し、会議・懇親会を通して、建築士会の現状及び他支部の情報について共有できたことにより、今後の支部活動の参考とすることができました。

６月27日（土）には、『建築士の日』パークゴルフ大会を、参加者21名により開催した後、同日の夕方に『建築士の日』親睦ビールパーティを参加者約200名により開催し、大抽選会などにより会員同士の親睦を深めることができました。

10月３日（土）は、札幌で開催された第48回建築士会全道大会に、支部のメンバー５名で参加してきました。

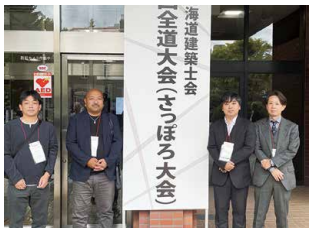
東方青年部長については、前日の青年サミットから大会に参加し交流を深め、本大会ブースでは災害対応委員会に所属している橋場委員の指導により、全員で机上訓練に参加してきました。

大会テーマのRE:BORNに基づく、田根氏の基調講演及びトークセッションを通じて、その土地の歴史を踏まえた設計・ランドスケープの作成プロセスに感銘を受けたと共に、懇親会場となった札幌パークホテルでの開催についても、大会テーマと相まって、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今後につきましては支部の活動に加え、積極的に他支部の皆さまと交流することにより、知見を広げていければと考えていますので、何卒よろしくお願いいたします。


パークゴルフ集合写真


ビールパーティ開催状況



全道大会参加状況


懇親会参加状況

道士会の動き

本部の主な会議報告（10月）

◆第２回道北ブロック会
〈開催日〉20日(火)　〈開催地〉旭川市
◆第３回道東ブロック会
〈開催日〉20日(火)　〈開催地〉釧路市
◆第３回道南ブロック会
〈開催日〉20日(火)　〈開催地〉苫小牧市

本部の主な行事予定（11月）

６日(金)　第３回道央ブロック会
21日(土)　第３回事業委員会

講習会・セミナーのご案内（11月）

建築士定期講習
11日(水)　札幌市　　18日(水)　帯広市

監理技術者講習
12日(木)　旭川市

既存住宅状況調査講習（更新）
18日(水)　札幌市

応急危険度判定士認定講習会（新規）
17日(火)　札幌市

総合図作成ガイドライン　設計図書整合性向上ガイドブック解説講習会
21日(土)　札幌市

建築士がマンションの未来を変える大規模修繕「修繕の心得」講習
25日(水)　札幌市

ＣＰＤ認定プログラム(10月認定)

◆新幹線工事札幌駅見学会
《日程及び会場》11月11日(水)　14：30～16：30
設計会館８階Ａ会議室（札幌市）
《単位数》　２単位
《プログラム問合せ先》
(一社)北海道建築士会札幌支部　℡　011-232-1843

会誌「北海道建築士」ＣＰＤ単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。
① CPD情報システムにログインをします。
② 自己申請の建築士会CPDメニューをクリックします。
③ 認定教材／建築士会WEBセミナー申請画面から検索し、会誌「北海道建築士」を選択します。
④ 設問への解答を選択します。
⑤ 入力後、「次へ」を押します。
⑥ 確認画面より「申請する」を押し、完了です。
注）不正解の場合は登録できません。

ＣＰＤ　自習型認定研修の設問

P5-P6　技術ノート
（木造集合住宅向け全館空調手法の開発）
北海道建築士　No.351
2026/11/1　　単位：1

設問　建築物の木造化の利点として不適切なものはどれか。

a．建設時におけるCO_2排出量の低減
b．木材の使用による炭素固定
c．界床の遮音性能の向上

第58回建築基準法講習会　講習方法の変更について

毎年ご好評をいただいております「建築基準法講習会」を、令和９年も開催いたします。本講習会は、建築基準法関係の最新情報や実務に役立つ知識を学ぶことができる貴重な機会として、多くの皆様に受講をいただいております。

令和９年開催分からは、開催方式を一部見直しいたします。午前および午後前半はDVDによる録画講習、午後後半は講師による対面講習を実施し、効率的な学習の充実を図ります。受付開始は12月７日を予定しております。日頃の業務に必要な知識の習得・再確認の場として、ぜひ受講をご検討ください。

なお、講習会の詳細につきましては、来月号に同封するフライヤーをご覧ください。

編集後記

朝晩の冷え込みが増し、秋の深まりを感じる季節となりました。今月号の巻頭は、８月に晴天の函館で開催された第43回青函桧交流会です。五稜の蔵やド・モンティーユを巡り、青森・桧山・函館の３支部の絆を深めた様子をお届けしました。青年委員会では各ブロック長の新たな意気込みを紹介しています。技術ノートは、木造集合住宅向けの全館空調手法の開発です。令和８年の会長表彰受賞者の皆様、おめでとうございます。CPD自習型認定研修の設問もぜひご活用ください。

情報委員会　山川 力

情報委員会委員長／前田　繁
副委員長／村山　賢司・立花智亜喜
委　員／奈良岡　修・山川　力
津山　浩・萩川　正人

北海道建築士　No.351号
発行　令和８年11月
編集・発行　一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西５丁目11番地 大五ビル
電話　(011)２５１－６０７６番
URL　https://www.h-ab.com/